

2025年3月期 第3四半期 決算説明資料

株式会社ゼネラル・オイスター
(3224)



2025年2月14日



1. 2025年3月期 第3四半期 決算 トピックス



2024年3月期 第3四半期 決算ハイライト

1Q期間でのノロウイルスの蔓延の影響と、コスト上昇で減益

1

2024年2月から発生した、全国でノロウイルスの蔓延があり当社の基準の生牡蠣の調達が困難になり、店舗事業、卸売事業とも営業縮小が余儀なくされ、その影響が売上減が2024年4月まで続いたことや、原価や人件費などのコスト上昇により最終利益は対前年比△28百万の減益。

営業利益は、対前年比△25百万円の24百万円と減益。最終利益は30百万円

2

主に店舗事業では、原材料費や、人件費の高騰など販管費の増加などにより、営業利益は対前年比△84百万円の212百万円と大幅減益。卸売事業もノロウイルスの影響などで、営業利益は対前年比△22百万円の85百万円の減益となり、この結果親会社株主に帰属する当期純利益は対前年比△28百万円の30百万円の最終利益。

通期配当は10円を予定

3

株主優待制度を2024年9月末で廃止した一方、株主還元に関しては、連結配当性向30%を基準としつつ、1株あたり10円を目安として配当を行う方針に変更。

第三者割当による新株式及び新株予約権の発行により最大660百万円の調達予定

4

既存事業の強化・拡大に加え、ブランドポートフォリオの拡充（新規ブランドの開発及び新規ブランドによる新規出店）、浄化施設の拡充の為、エクイティファイナンスを通じて、自己資本の充実と財務体質を一層強固なものとし、環境の変化に柔軟に対応していく体制を築くため、第三者割当による新株式及び新株予約権の発行によって最大660百万円の調達予定

2025年3月期 第3四半期 概要

売上高は3,009百万円（前年同期比4.2%増）と増収。営業利益は店舗事業が原材料費や人件費の高騰などによる販管費の増加により前年比△25百万円の24百万円と減益。

親会社株主に帰属する当期純利益は、前年比△28百万円の30百万円。

	2020年3月期 第3四半期 (参考・コロナ前)		2024年3月期 第3四半期		2025年3月期 第3四半期		前年同期比 (%)	
	実績 (百万円)	構成比 (%)	実績 (百万円)	構成比 (%)	実績 (百万円)	構成比 (%)		
売上高	2,783	100.0	2,887	100.0	3,009	100.0	+121 (+4.2%)	① 店舗事業の 販管費が前年 より増加
売上原価	958	34.4	1,009	34.9	1,072	35.6	+63 (+6.3%)	
売上総利益	1,825	65.5	1,878	65.0	1,936	64.3	+57 (+3.1%)	② 店舗、卸とも 営業利益は減益
販売管理費	1,902	68.3	1,827	63.3	1,911	63.5	+83 (+4.6%)	
営業利益	△77	△2.7	50	1.7	24	0.8	△25	③ 陸上養殖の子会社の 売却による特別利益
経常利益	△84	△3.0	47	1.6	21	0.7	△25	
特別利益	-		4		43		+38	
特別損失	-		5		-			
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△59	△2.1	59	2.0	30	1.0	△28	

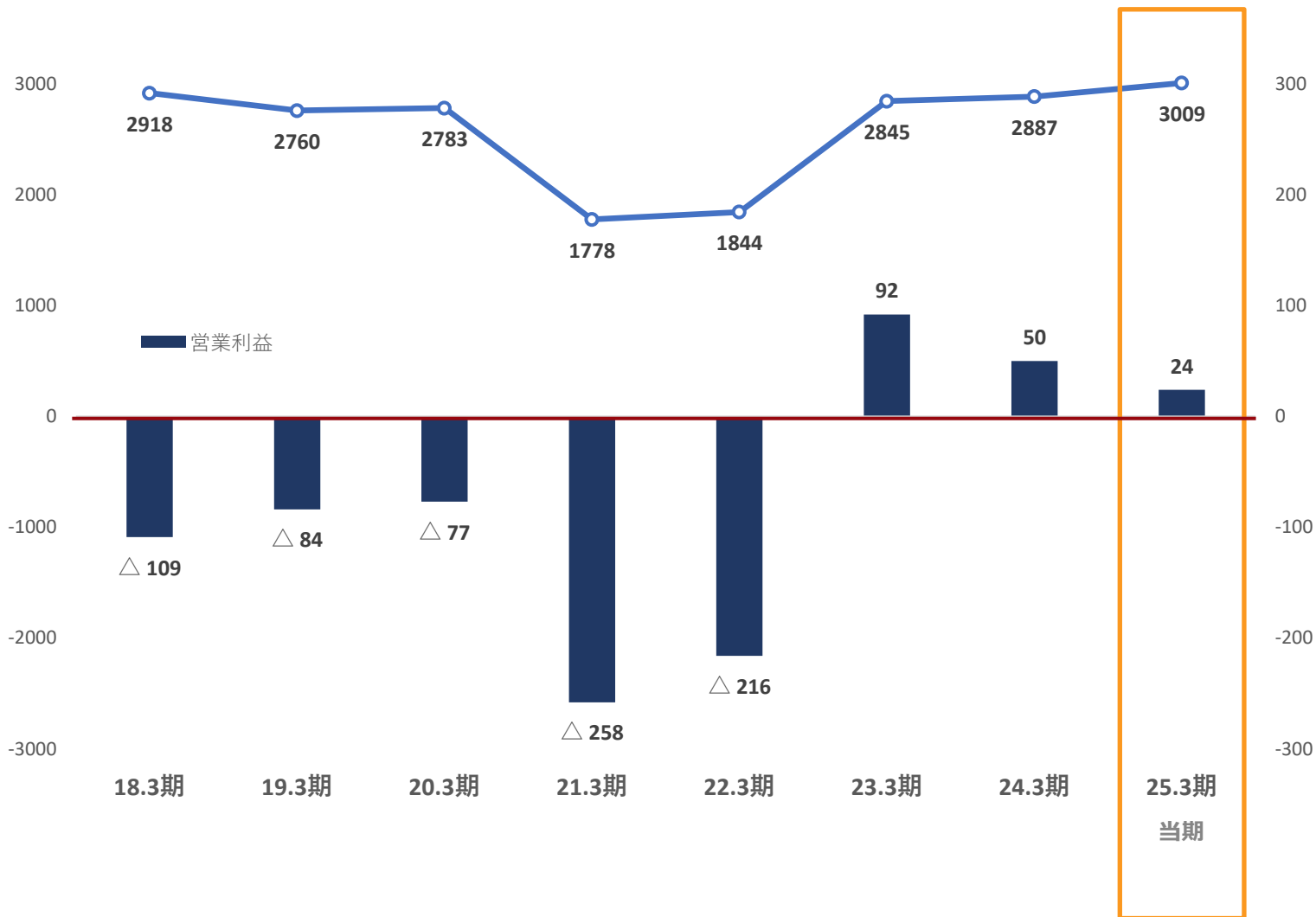
第3四半期 連結業績について

売上高は店舗増加などの影響により増収。しかし営業利益は、店舗事業の原材料費や人件費の高騰などによる販管費の増加をカバーできず、対前年△25百万円の24百万円と減益。

(単位：百万円)

売上高
30.09
億円

営業利益
24
百万円

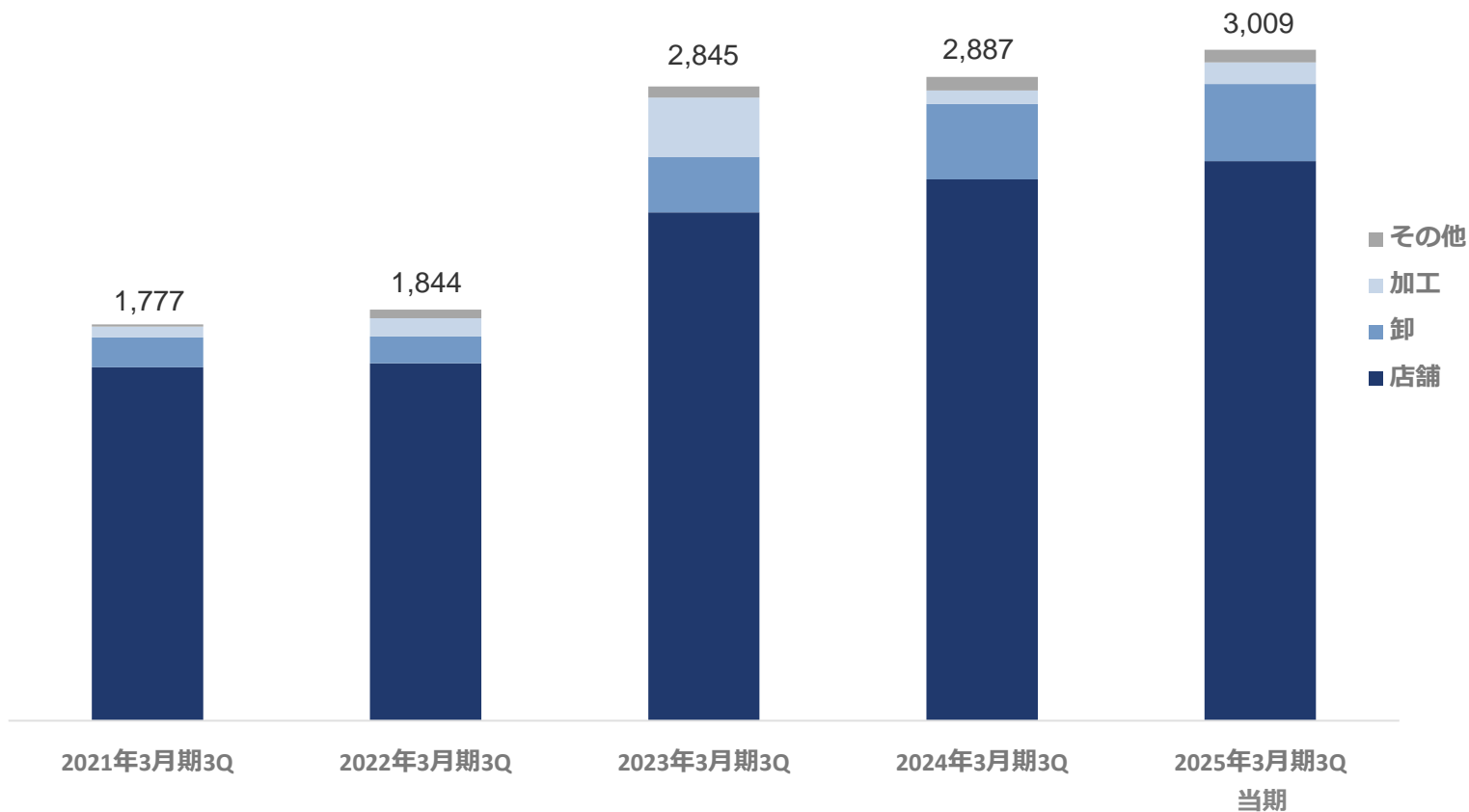


第3四半期 連結売上高推移

グループ全体では、前会計年度（2024年3月期第4半期）の能登半島地震による富山入善での取水トラブルや、ノロウイルスの蔓延の影響が当2025年3月期第1四半期の4月までその影響が続いたものの、店舗数増加等の要因により対前年+4.2%の3,009百万円となった。

3Q連結売上高推移

(百万円)



貸借対照表概要

2024年12月期末の総資産は31.66億円、前期末比+9.31億円。
 自己資本は10.94億円、自己資本比率は34.6%。引き続き、収益力を高め、財務基盤の強化を図る。

(百万円)	2024年3月期 期末	2025年3月期 第3四半期		2024年3月期 期末	2025年3月期 第3四半期
資産の部			負債の部		
流動資産	1,245	1,956	流動負債	473	1,185
現金及び預金	855	949	買掛金	124	153
売掛金	207	333	短期借入金*1	67	81
原材料	77	60	その他	282	951
未収入金	30	0	固定負債	852	869
その他	75	614	長期借入金	387	309
固定資産	691	827	その他	465	560
有形固定資産	677	816	負債合計	1,326	2,054
その他	13	11	純資産の部		
投資その他資産	298	382	株主資本	927	1,094
敷金及び保証金	288	283	その他	△17	17
その他	10	99	純資産合計	909	1,111
資産合計	2,235	3,166	負債純資産合計	2,235	3,166

*1．1年内返済予定の長期借入金を含む

2025年3月期第3四半期 セグメント別業績概況

店舗事業の営業利益は、原材料費や人件費の高騰などで、前期比△84百万円の212百万円。卸売事業もノロウイルスの影響で、売上を伸ばせず減益となり、連結で増収減益となった。

セグメント売上高

(百万円)	2024年3月期 3Q	2025年3月期 3Q	前年同期比	増減率
店舗事業	2,450	2,529	+79	+3.3%
卸売事業	340	350	+9	+2.9%
加工事業	62	97	+35	+56.6%
その他 ※1	61	56	△4	△6.9%
調整	△26	△ 25	+1	—
合計	2,887	3,009	+121	+4.2%

*1 : EC通販など

セグメント営業利益

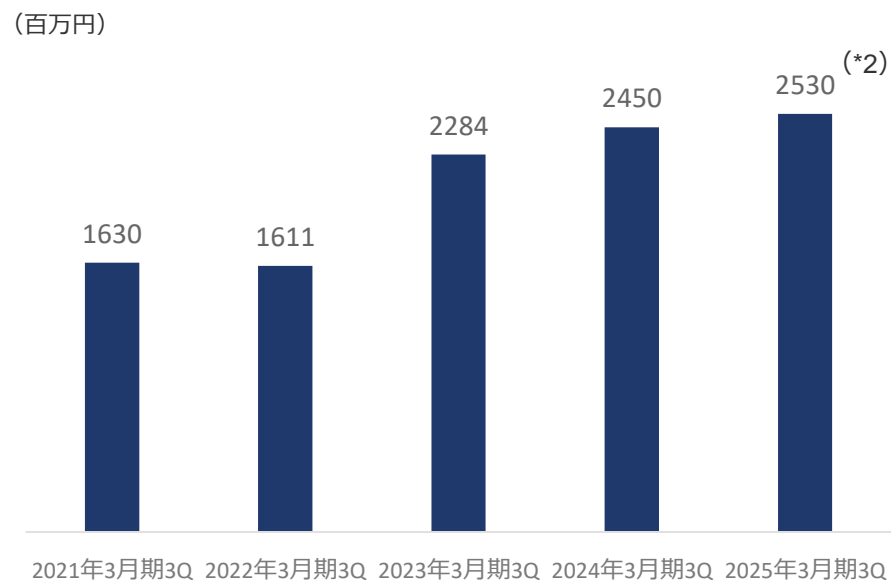
(百万円)	2024年3月期 3Q	2025年3月期 3Q	前年同期比	増減率
店舗事業	297	212	△84	△28.5%
卸売事業	108	85	△22	△20.5%
加工事業	△54	△43	+11	—
その他 ※1	7	△ 1	△8	—
調整	△307	△ 229	+77	—
合計	50	24	△25	—

*1 : EC通販など

2店舗出店、1店舗の改装により売上は+79百円の増収であったが、原材料費や人件費率の高騰により販管費が増加したことなどの影響で、営業利益は、前年比△84百万円の減益となった。

(百万円)	2024年3月期 3Q	2025年3月期 3Q	前年同期比	増減率
売上高	2,450	2,529	+79	+3.3%
営業利益 (*1)	297	212	△84	△28.5%
営業利益率	12.1%	8.4%	△3.7pt	—

店舗事業 3Q売上高推移



(直営店舗数)

25店舗

26店舗

25店舗

27店舗

28店舗

*1. セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

*2. FC店舗の売上は、ロイヤリティ収入のみ計上

店舗事業（出退店及び店舗数について）

新規出店2店舗

⇒2024年12月末全店舗数：30店舗（直営：28店舗、FC：2店舗）

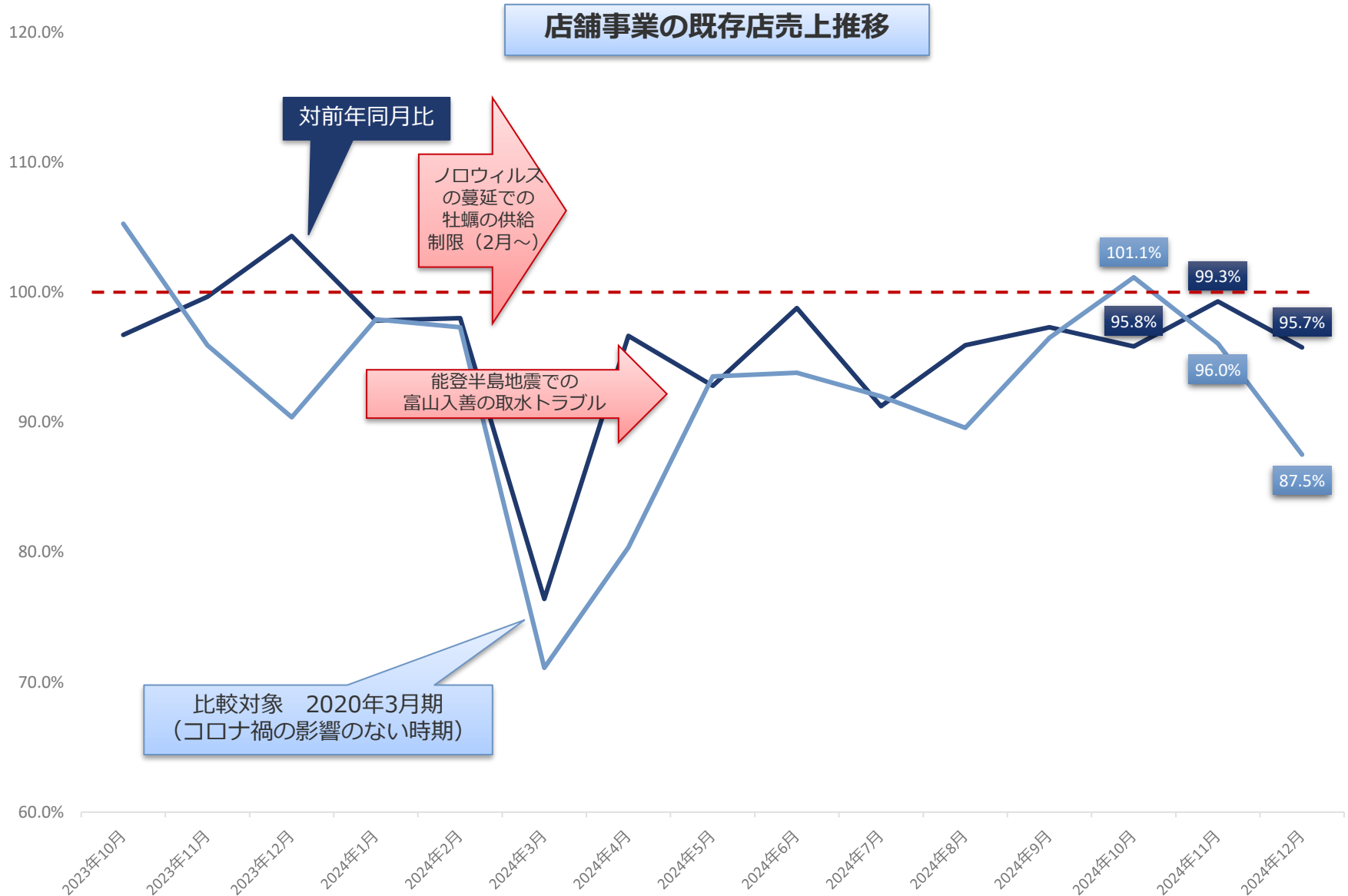
	2024年3月期 期末 店舗数	増減数		2025年3月期 第3四半期 店舗数	業態変更
		出店	退店		
直営店舗 合計	26	2	0	28	
FC店舗	1	1		2	
全店舗店舗 合計	27	3	0	30	

新規出店3店舗の主な内訳

- ・主要ブランド「8TH SEA OYSTER Bar」
 - （直営店舗） 横浜モアーズ店（2024年4月）
 - 東京トーチ店（2024年11月）
 - （FC店舗） 大阪・梅田NU茶屋町店（2024年10月）

店舗事業 (既存店売上高 (前年比、コロナ前比))

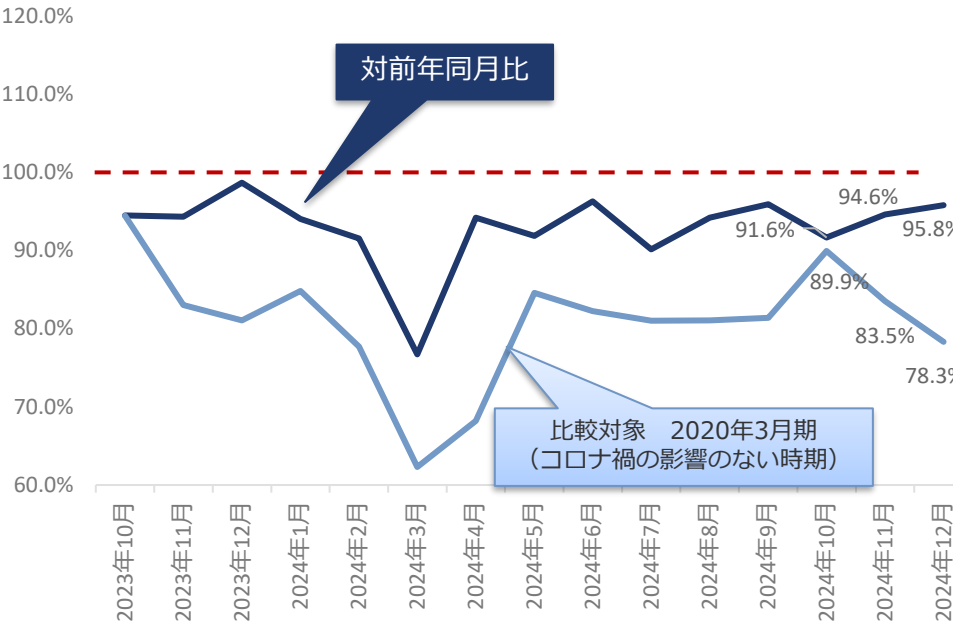
2024年2月から5月にかけて、ノロウィルスの蔓延による牡蠣の供給制限、能登半島地震での富山入善の取水トラブルにより、大幅な売上減少となったが、その後は前年売上に近づいている。



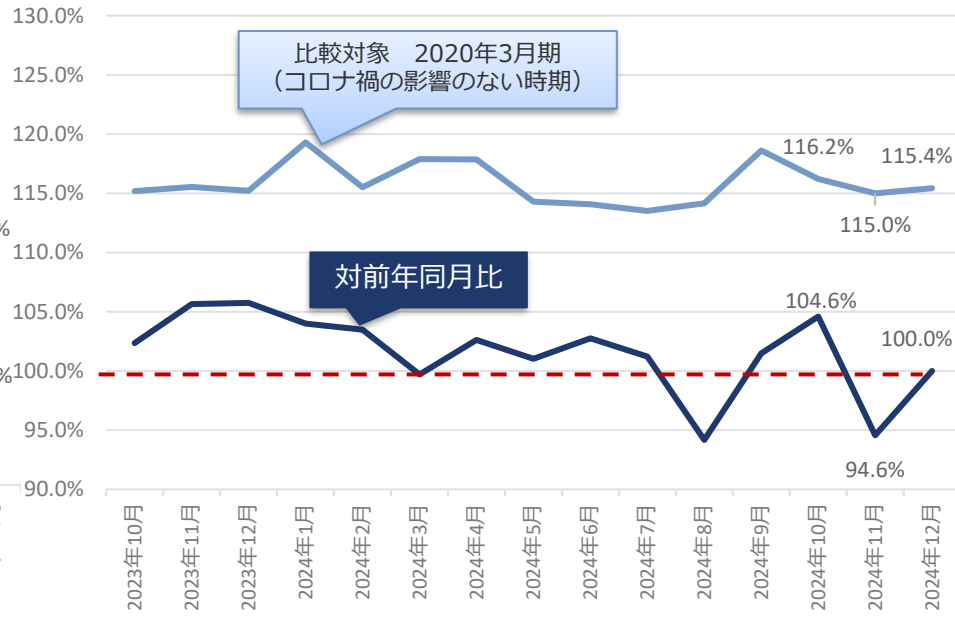
店舗事業（既存店客数・客単価（前年比、コロナ前比））

客数はコロナ後営業時間の短縮などの影響もあり前年割れが続く。客単価も前年を超える月もあり回復傾向

客数の推移



客単価の推移



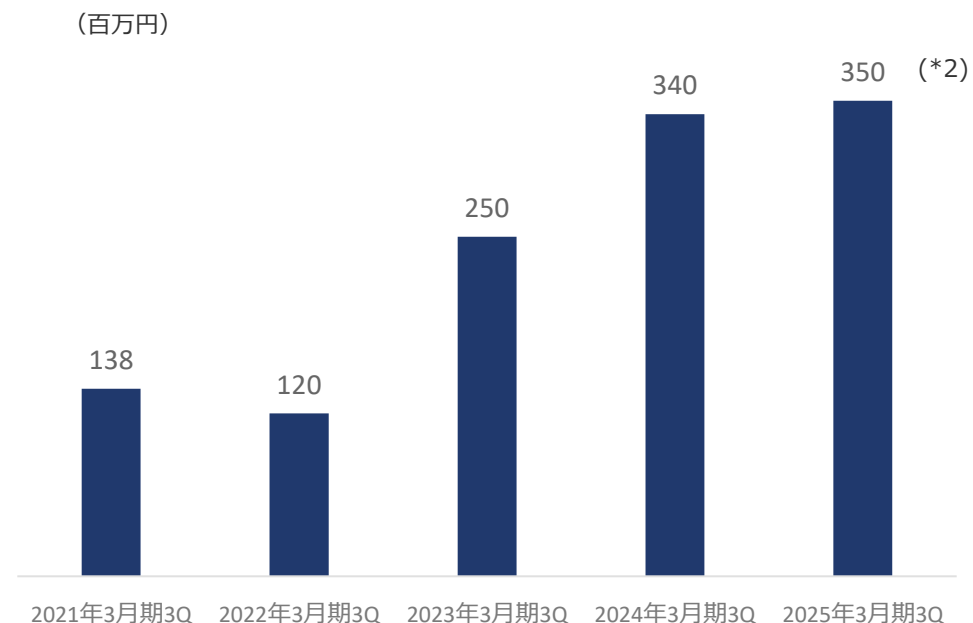
卸売事業

第1四半期にノロウイルスの影響で売上が鈍化したが、その後は店舗事業同様に回復。原材料の高騰の影響により減益となった。

(百万円)	2024年3月期 3Q	2025年3月期 3Q	前年同期比	増減率
売上高	340	350	+9	+2.9%
営業利益 (*1)	108	85	△22	△20.5%
営業利益率	31.8%	24.5%	△7.3pt	—

*1. セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

卸売事業 売上高推移



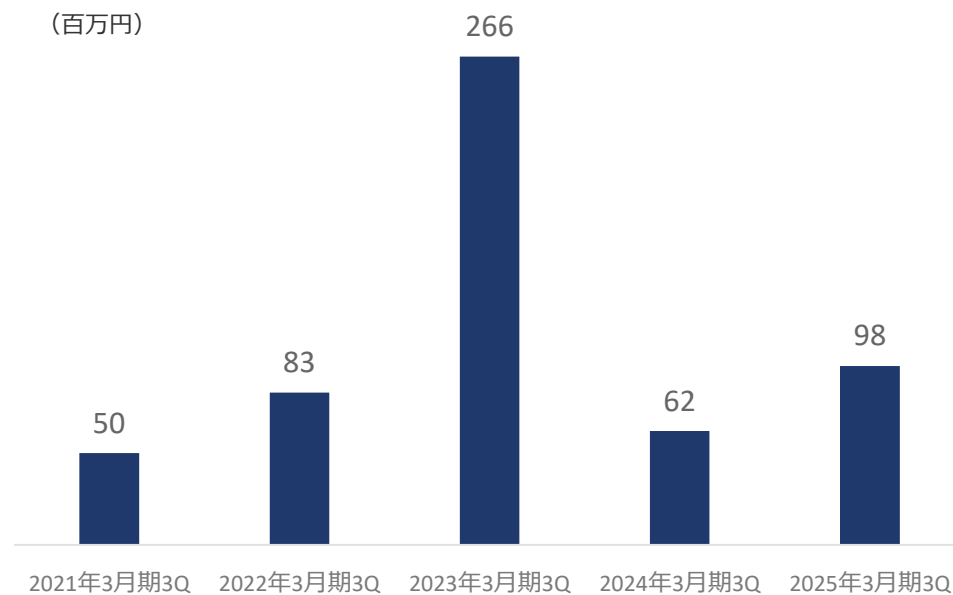
*2. FC店舗の牡蠣の卸売売上を計上

加工事業は損失幅が小幅ながら縮小。

(百万円)	2024年3月期 3Q	2025年3月期 3Q	前年同期比	増減率
売上高	62	97	+35	+56.6%
営業利益	△54	△43	+11	—
営業利益率	—	—	—	—

*1. セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

加工事業 売上高推移



*2. グループ各社への売上は原材料費のみ計上

2. 今後の取り組みについて



2025年3月期の経営戦略の見込み

禍に臨機応変に対応しつつ、再成長へ向けた取り組み

方針	重点施策	進捗状況	活動計画
『守りの取り組み』	コストコントロールの徹底	○	引き続き、推進
再成長に向けた 『攻めの取り組み』	「EC通販の強化」など 販売チャネルの多角化	○	引き続き、売上伸長を推進
	店舗事業の収益拡大	△	売上拡大に向けた、出店・ リニューアルを進める
	国内卸売事業の収益拡大	△	付加価値を向上させ、更なる 増収増益へ。
	加工事業による収益貢献	△	稼働の改善を進める
	店舗事業のDX化を活用しての効率化	○	引き続き、推進
	再生可能エネルギー（太陽光事業）への参入	○	2025年下期から収益化の予定

3. 2025年3月期 業績見通しについて



通期業績の見通しについて

オイスターの安心安全の高付加価値化の実現し既存事業の立て直しと、再生可能エネルギー事業（太陽光）など新たな成長軸をプラスさせ、持続的成長の実現と企業価値の向上を図ってまいります。

(百万円)	2024年3月期 通期実績	2025年3月期 連結業績予想	前年同期比 (%)
売上高	3,790	5,130	+1,340 (+35.4%)
営業利益	16	189	+173 (+1,081.2%)
経常利益	29	185	+156 (+532.8%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△95	130	+225



General Oyster

免責事項

本資料に記載されている将来に関する内容は、当社グループが資料作成時点において入手可能な情報に基づいたものであり、潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。

特に当社グループの事業領域は、一般的な経済状況以外にも業績に影響を与えうる要因が数多く存在しているため、実際の業績等は様々な要因により将来の見通しと異なる場合があることをご承知おきください。